

まっとうな おとなだったら・・・

教員になったとき、

「まっとうなおとな」だったら、子どもが好きなのは当たり前、
教員は、その上で何ができるか、という言葉をよく聞かされました。

この子どもが好きな「まっとうなおとな」はどこへ行ってしまったのでしょうか？

自分の子どもを虐待して殺してしまう「親」と呼ばれる「おとな」

自分の気に入らない子どもをいじめる「先生」と呼ばれる「おとな」

自分より弱い立場に置かれたものに怒りをぶつける町の中の「おとな」

何も罪のない子どもを刺し殺してしまう見ず知らずの「おとな」

川崎市の子どもの権利に関する条例の策定には、

たくさん子どもたちが参加していました。

おとなと向き合って話し合ってきた子ども委員が最後に残したメッセージは、

「おとなが幸せに」ということでした。このメッセージを紹介します。

まず、おとなが幸せでいてください。

おとなが幸せじゃないのに子どもだけ幸せにはなれません。

おとなが幸せでないと、子どもに虐待とか体罰とかがおきます。

条例に「子どもは愛情と理解をもって育まれる」とありますが、

まず、家庭や学校、地域の中で、おとなが幸せでいてほしいのです。

子どもはそういう中で、安心して生きることができます。

これが、川崎の子どもたちの願いでした。

子どもたちは、ずっと、おとなが幸せでないと気付いていたのです。

なんで、こんなに怒りをため込んだ「おとな」が多いのか、

なんで、こんなに絶望の淵に立たされている「おとな」が多いのか、

気付いているのです。

今、私たちは、

まっとうな「おとな」を育て、まっとうな社会をつくるために、

少しずつ、自分の力を社会に出さなければならないのではないのでしょうか？

子どもの幸せのために、「おとな」を絶望の淵に立たせないために・・・。

「まず、おとなが幸せにいてください」。

これが、このメールマガジンを通して、

皆様にお伝えする私からの最後のメッセージとなりました。

長い間ご愛読いただき有難うございました。(M.Y)